

## 令和3年度北海道地域評議会報告

### 1. 開催日時・場所

令和4年2月22日（火）14時00分～16時30分  
森林総合研究所北海道支所 大会議室（オンライン併用）

### 2. 評議会委員

中野 亨 委員（北海道森林管理局森林整備部長）※  
佐藤冬樹 委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長）※  
谷 一之 委員（下川町長）

※ オンライン参加

### 3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長（5名）※、  
グループ長（名）※、地域連携推進室長、総務課長

北海道育種場：場長※、連絡調整課長※、育種課長※、育種研究室長※、  
遺伝資源管理課長※、育種技術専門役※

札幌水源林整備事務所（オブザーバー）：所長※、次長※

北海道森林管理局（オブザーバー）：森林整備部技術普及課 企画官（技術開発）※

※ オンライン参加

### 4. 評議会内容

#### (1) 令和3年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を共通部分として紹介した後、北海道支所と  
林木育種センター北海道育種場の組織、課題構成、資金、連携橋渡し状況、行事及び広報  
活動についてそれぞれ説明を行った。

#### (2) 北海道支所研究紹介

① 「森林総研交付金プロジェクト『天然更新による低コストカンバ施業システムの開発』  
成果概要」

② 「気候変動下での天然生落葉広葉樹林による炭素吸収量の将来予測」

#### (3) 北海道育種場研究紹介

「育種種子採取の効率化に向けて ～UAV と AI を活用した採種園着果情報の提供～」

### 5. 評議会委員からのコメント・助言

・ UAV（無人航空機）や AI（人工知能）の活用など参考になるものがたくさんあった。施業  
の中でも特に造林の分野でのコスト削減が求められている。そのような分野で北海道支所  
や北海道育種場と協力して取り組んでいければと考える。昨年の夏、高温・少雨で苗木の

成長が非常に悪く苗木の供給が不足したので、安定的な供給という点で採種の話は参考になった。これからも引き続き協力をお願いしたい。

- ・研究や教育機関に社会との協働が求められている中、イノベーションや AI が重要になる。林業への導入は難しい面もあるが、いろいろな手法を駆使して森林総研で技術を発展させてほしい。北海道は、第一次産業である農林水産業をベースにして発展させていかなければならない。道北では林業と観光しかないように言われているが、特に林業は基幹産業であり、ベースになるものなので、北海道支所や北海道育種場での技術開発に期待している。
- ・現在、技術革新と森林の保全、地域の経済産業活動のバランスが求められている。2050年カーボンニュートラルに向けて、下川町では2月1日にゼロカーボン推進戦略室を立ち上げて取り組みを強化している。森林に関わる人材育成にしっかり取り組む必要がある。研究とともに林業の担い手も増やさなければならず、それぞれの組織で連携して人材育成を進められればと思う。